

異文化コミュニケーション

科目ナンバリング JLE-201
選択必修 2単位

日野 純子

1. 授業の概要(ねらい)

自分とは異なる文化、背景をもつ人たちとどのようにかわるかというグローバル社会の一員として、最も基本的なことについて、実践的に学んでいくクラスです。多様性が進む現在、職場・地域・学校においても、またSNS上のコミュニケーションにおいても、外国籍の人だけでなく、様々な価値観や考え方の違いを持った人とお互いに尊重しながら対話すること求められています。この授業では、最初に、「文化」「ことば」「コミュニケーション」などについての基本的な概念を理解したあと、自分とは異なる文化・価値観・背景などを持つ人たちと円滑に意思疎通をし、誤解や問題が生じた場合の解決方法について、実践を通して学びます。

2. 授業の到達目標

この授業はディプロマポリシーの中で、特に「教育の実践的方法論に即して、学校やその他の多様な場で教育活動を実践できる」こと、および「社会人として必要なコミュニケーション能力を養い、職業人として必要な使命感や責任感を身に付けている」の二つの習得をめざすものです。そのために、具体的に以下の三つの目標を掲げます。

- 1「文化」「ことば」「コミュニケーション」などについての基本的な概念を理解したうえで、それを自分のことばで説明できる。
- 2自分とは異なる文化や背景を持つ人達と円滑に意思疎通するためにはどうしたらよいかについて、実践を通して自分なりの答えを見つけられる。
- 3職場・地域・学校などにおいて、異文化の人たちの間で起こりうるコミュニケーション上の誤解や問題が起きた際の対処方法を考え、実践できる

3. 成績評価の方法および基準

- 1平常点(授業への参加、ワークシート、課題への取り組み)50%
 - 2中間のまとめテストおよび、最終のまとめテスト 50%
- *正当な理由なく5回以上、欠席した学生には単位を与えられません*

4. 教科書・参考文献

教科書
原沢伊都夫 『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』 研究社

5. 準備学修の内容

このクラスでは、教員による講義だけでなく、ペアやグループでの話し合いや個人での作業をしながら学んでいきます。自分とは異なる背景を持つ人と対話することは、新しい学びや気づきを与えてくれるだけでなく、教育者・社会人としてのコミュニケーション能力を習得するための良い機会です。その準備として、指定された教科書の章や参考文献を事前によく読んで授業に参加しなければなりません。コミュニケーションに関することばやジェスチャーを使った活動も行います。これらの作業の結果や自己分析を毎回、ワークシートに記入して授業の最後に提出しますので、クラスメートとよく協力し、積極的に参加する姿勢が求められます。

6. その他履修上の注意事項

- 1各自、真摯な態度で授業や課題にのぞみましょう。
- 2遅刻、早退、欠席は避けましょう。
- 3第14回目の授業はLMSで行われる予定です。
- 4グループやペアでの作業には、相手を尊重しつつ積極的に参加しましょう。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | オリエンテーション、オリエンテーション、グループ分け、授業の概要・目標を理解する。グループのメンバーについて知る「異文化交流」とは(第1章)(LMS) |
| 【第2回】 | 文化とは何か・文化の定義・文化の分類・文化の特徴について基本的事項を習得し、自身の自文化について分析する |
| 【第3回】 | コミュニケーション(能力)とは何か・定義・しくみ・構成要素について基本的事項を習得し、日常のコミュニケーションの事例を分析する |
| 【第4回】 | 異文化コミュニケーションとは何か・定義・しくみについて基本的事項を習得し、日常の異文化コミュニケーションの事例を分析する(第6章) |
| 【第5回】 | 異文化適応とカルチャーショックについて基本的事項を習得し、自身のカルチャーショックの体験について分析する(第4章) |
| 【第6回】 | 異文化の認識 固定概念・偏見・ステレオタイプについて基本的事項を習得し、日本・アメリカなどにおけるこれらの事例と課題を分析する(第7章) |
| 【第7回】 | 1～6回目の振り返り 中間のまとめテスト |
| 【第8回】 | 差別 種類・分類・原因・対処法について基本的事項を習得し、日本・アメリカなどにおけるこれらの事例と課題を分析する(第8章) |
| 【第9回】 | 世界の価値観・対人距離・時間の感覚の文化差について基本的事項を習得し、日本・アメリカなどにおけるこれらの事例と課題を分析する(第9章) |
| 【第10回】 | 言語VS非言語・非言語コミュニケーションの種類について基本的事項を習得し、日本語や英語におけるこれらの事例を分析する(第13章) |
| 【第11回】 | 異文化トレーニングの実践1 ジョハリの窓・DIEメソッド・ケーススタディについて基本的事項を習得し、事例に則したトレーニングを実践する(第12&第10章) |
| 【第12回】 | 異文化トレーニングの実践2 あいづち・エポケー・やさしい日本語について基本的事項を習得し、事例に則したトレーニングを実践する |
| 【第13回】 | 異文化トレーニングの実践3 やさしい日本語について概要を理解し、非日本語話者に対するコミュニケーションを想定したトレーニングを実践す |
| 【第14回】 | 第1回から13回で学んだ文化・異文化・コミュニケーションなどに関する基本的概念の理解を確認した上で、コミュニケーション上の問題に対する具体的な対応策を説明、実践できるようになる(LMS) |
| 【第15回】 | まとめ・復習と最終のまとめテスト |

